

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「漢字の国 新潟」

パソコン等の普及で、漢字の能力が落ちていると言われてます。人前で漢字を書く必要に迫られた際、筆順やら文字をど忘れてしまった時、あるいは漢字能力に不安な時は、「あきゃ！パソコン使っていると文字忘れるんですね。ほほほほほ」とパソコンにかつて（訳：責任転嫁して）しまうので、パソコンこそオオメークです。以前はしかもか楽しかった「辞書をひく」という単純作業でさえ、よっぽどのことがない限り機械頼みになりました。『国語辞典』『古語辞典』『漢和辞典』『英和辞典』『和英辞典』をよいしょ！と抱えて登校している学生など、もはや皆無です。それに、あの分厚い辞書を書棚からやっとなんか引っぱり出してくるのさえ、気力・体力・知力の面でおおごとを感じるようになってきています。昨今のIT技術は音声入力機能も発達してきたので、ますます私の漢字能力はあきゃきゃとダウンしていくことでしょう。

それにしても、ぶ厚い辞書のなかでも、『漢和辞典』には、昔から出番を作らず本当に気の毒なことをしてきました。現に『漢和辞典』は、書棚の一番隅っこで休眠状態になっております。ああ、わーりかったね、『漢和辞典』、これでは、漢学者諸橋轍次を輩出した新潟県民としては大いに反省しなければいけないことだと、うなだれております。

諸橋轍次、その人は旧南蒲原郡の下田村（現三条市）に生まれた偉人、明治の人です。この諸橋先生、なんと50年の歳月をかけて『大漢和辞典』を編纂。元来雪国越後人は忍耐強いと言われてますが、かの下田地域も言わずと知れた豪雪地、その雪

をも溶かすかのような熱意で視力を失いながら世にこの辞書を送りだしました。嗚呼、まさに生涯をかけた渾身の作。嗚呼、感嘆、驚愕、恐悦至極。五言絶句か七言絶句、もはや絶句ものです。

嗚呼（が多いが、これを入れると漢文調に早変わり！）雪国越後漢字漢文良く似合う。それが証拠に県内の地名にも、糸魚川の天下の剣「親不知子不知」（おやしらずこしらず）の漢文調がみられます。近くには「月不見」（つきみず）のこれまた漢文調の厳かな美しい地名もあります。返り点（レ点）もなしに県民はフツーに読めるのも漢字の国新潟ならではと言えましょう。ではでは、東京上野の「不忍池」（しのばずのいけ）はどうなる？という声は、うふふこの際聞かなかったことにいたしました。早速、私も漢文調で願望欲望一切合財締めてみたいと思います。

漢学新潟	美酒美談	質実剛健	悪人退治	容姿端麗	老化防止	才色兼備	日本列島	商売繁盛	家内安全
県民気質	締切厳守	天下泰平	百戦錬磨	文章上達	抗加齢化	弁舌活達	景気回復	頭腦明晰	身体健護

次回益々乞御期待

